

Stage8

A Wild Ride

激流下り

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すといいでしょう。

・お子さんとタイトルを読んで、表紙と裏表紙をながめてみましょう。これは何についての本だと思いか話し合ってください。

・2 ページを見てください。マックス、キャット、アント、タイガーが何をしているところか話しあいましょう。おなじ登場人物が出てくる本を読んだことがあるか、彼らのことをもっと知っているかどうかお子さんにたずねてみてください。

・このお話で登場人物たちにどんなことが起こると思うか、お子さんにたずねてください。

自分のペースで読むように、お子さんに言ってあげてください。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

micro-friends マイクロ・フレンズ

groaned うめいた

window 窓

huge 大きな

jacket 上着

cork コルク

helmets ヘルメット

skimming かすめている

[p. 1]

激流下り

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

[p.2]

マックス、キャット、アント、タイガーは腕時計のダイヤルを回しました……

[p.3]

マイクロ・フレンズは隠れ家にいました。何をしようかと話し合っているところでした。

「マイクロサイズのけものを狩りに行こうよ」アントが言いました。

「えー、いやよ、もうこりごり！」キャットがうめきました。「飽きちゃったわ」

[p.4]

「ぼくも」とタイガーが言いました。「なにかおもしろいことがしたいな！」

突然、奇妙な音がしました。

「なんだ、あれは」マックスが言いました。

[p.5]

4人は窓からのぞいてみました。

「雨だわ」とキャットが言いました。「おっきい雨つぶ！」

<ドスン！>

<バシャン！>

[p.6]

隠れ家の中は快適で、カラッと乾燥していましたが、外の小道はすぐに水びたしになりました。あっという間に坂を流れ出し、段差のところでしぶきをあげていました。

[p.7]

「まるで川みたいだね」アントが言いました。

「ボートか、いかだがあったらなあ……」タイガーが言いました。

[p.8]

マックスは隠れ家にあるものをぐるっと見まわしました。

「その気になれば、ぼくたちはいつだって作れるよ」マックスは言いました。

①マックスは鉛筆をひもで束ねました。

②キャットはオールのかわりにするスプーンを見つけました。

[p.9]

③アントはコルクで救命胴衣をつくりました。

④タイガーはどんぐりの殻をヘルメットにしました。

[p.10]

「すごいいかだだ！」マックスは言いました。「みんな、準備はいいかい」

「もちろんさ！」タイガーが大きな声で言いました。「さあ、行こう！」

[p.11]

みんなでいかだを隠れ家からだしました。水が道をいきおいよく流れていました。

マイクロ・フレンズはいかだに乗りこみました。

「しっかりつかまって！」マックスが大声で言いました。

[p.12]

ヒュー！ いかだは流れに乗って小道をくだっていきました。まもなく、最初の段差のところにさしかかり、それを飛びこえました。「バシャン！」という大きな音を立てて、流れにもどりました。

<バシャン！>

[p.13]

「こわかったあ！」とタイガーが叫びました。

「ものすごく荒っぽいいかだくだりね！」キャットがわめきました。

「急流下りみたいだ」とアントが大声で言いました。

「しっかりつかまってろよ、みんな！」マックスが叫びました。「次の急流がすぐそこだ……」

<しっかりつかまれ！>

[p.14]

次の段差を飛び越えました……バシャン！　そしてもうひとつ……バシャン！　さらにもうひとつ……バシャン！　いかだはどんどんスピードを上げていきました。

[p.15]

「もう楽しいのかなだかわからなくなってきたわ」キャットがぐちをこぼしました。

「ぼくも」とタイガーが言いました。

「気持ち悪いよ」アントがうめき声を上げました。

「心配ないさ」マックスは言いました。「スピードを落とすようにやってみるから……」

[p.16]

流れが激しくなりました。いかだはさらに落差を飛び越えました……バシャン！　そして、もうひとつ、これまででいちばん大きく、最後のものです——バシャン！

マックスはホツとため息をついて、顔を上げました。そして、マックスも気分が悪くなってしまいました。

いかだが、池のまわりにはりめぐらされたフェンスに向かっていているところだったのです。

[p.17]

フェンスは4人の前にそびえ立っていました。金属の棒の間にはすき間がありました。でも、そのすき間は、いかだにはちよつと幅が足りませんでした。

「ああああ！」とタイガーが悲鳴を上げました。「もうダメだ！」

[p.18]

「ジャンプしなくちゃ！」マックスが叫びました。

いかだは今や草をかすめて進んでいました。あたりの空気は水煙で充満していました。

「3つ数えるぞ」とマックスが大声で言いました。「1……2……3！」

[p.19]

マックス、キャット、タイガーはきれいにジャンプしましたが、アントはこわがって飛べませんでした。

いかだにしがみついたままだったのです。

「たすけて！」とアントが叫びました。

「見てられないわ」とキャットが言いました。

[p.20]

いかだは「ガッチャーン」とフェンスに激突して、こっぱみじんになりました。アントは最後に残った鉛筆の束につかまりました。

<ガシャン！>

<たすけて！>

[p.21]

アントはフェンスのすき間をすつ飛んで、水面をすれすれにかすめていきました。鉛筆が池の真ん中にある小さな島に着地しました。アントはねばねばした泥んこの中に放り出されました。

[p.22]

「アント！」キヤットがさげびました。「だいじょうぶなの？」

アントは立ち上がって、手を振りました。

「フーッ！」とマックスが言いました。「さあ、ぼくたちはアントを連れもどさなくちゃ」

タイガーはこなごなになったいかだを見ました。「どうやってだい、マックス？」とタイガーは言いました。

[p.23]

キヤットは池の向こうに目をやりました。かわいそうなアントはいつも以上に小さく見えました！ それから、キヤットの目に水中を動くものがうつりました。巨大な影が泳ぎ過ぎていきました。

「もっと大きないかだが必要なんじゃないかしら」とキヤットは言いました……

<つつく……>

[p.24]

もっと知りたい人は……

マックス、キヤット、タイガーは、どうやってアントを救うのでしょうか？ 続きは Don't Look Down! でどうぞ。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問を試してみましょう：

- ・どうして子どもたちはいかだをつくったのかな？
- ・安全のために、子どもたちは何を着ていたかな？ それは何で出来ていた？
- ・いかだに乗って出発したときに、子どもたちはどんな気分だったと思う？ 飛びおりなければならなくなる前は、どんな気持ちだったと思う？ ひとり取り残されたアントはどんな気分だっただろう？
- ・ラストで何が起こりましたか？

この話をまた読んでみるよう、お子さんにすすめましょう。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

お子さんに、次はどんなことが起こるかたずねてみましょう。Don't Look Down!を読んでみましょう。この本やいかだについて、もっと話してみましょう。お子さんとオリジナルのいかだをつくったり、浮いたり沈んだりするものを使って実験をしてみたいかがでしょうか。